

寄生性・角化性皮膚疾患用剤

サリチル酸原末「マルイシ」

貯 法：室温保存
 使用期限：3年（ラベルに記載）
 注 意：〈配合禁忌〉ヨウ素、鉄塩、酸化剤

日本薬局方
 サリチル酸

承認番号	22100AMX01381
薬価収載	2009年9月
販売開始	2009年9月
再評価結果	1977年10月

【禁忌(次の患者には使用しないこと)】

本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1. 組成

本品1g中 日局サリチル酸1g 含有。

2. 性状

白色の結晶または結晶性の粉末で、においはなく、わずかに酸味があり、刺激性である。
 エタノール(95)、アセトンまたはジエチルエーテルに溶解やすく、熱湯にやや溶けやすく、水に溶けにくい。

【効能・効果】

○絆創膏として

疣贅・鶏眼・胼胝腫の角質剥離

○軟膏または液剤として

乾癬、白癬（頭部浅在性白癬、小水疱性斑状白癬、汗疱状白癬、頑癬）、癬風、紅色枇糠疹、紅色陰癬、角化症（尋常性魚鱗癬、先天性魚鱗癬、毛孔性苔癬、先天性手掌足底角化症(腫)、ダリエー病、遠山連團状枇糠疹）、湿疹（角化を伴う）、口囲皮膚炎、掌蹼膿疱症、へプラ枇糠疹、アトピー性皮膚炎、ざ瘡、せつ、腋臭症、多汗症、その他角化性の皮膚疾患

【用法・用量】

症状に応じて下記の濃度の軟膏剤、または液剤とし、1日1～2回塗布または散布する。

小児 サリチル酸として 0.1～3%

成人 サリチル酸として 2～10%

なお、疣贅、鶏眼、胼胝腫には、通常サリチル酸として50%の絆創膏を用い、2～5日目ごとに取りかえる。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

患部が化膿しているなど湿潤、び爛が著しい場合には、あらかじめ適切な処置を行った後使用すること。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

その他の副作用

- (1) 過敏症（頻度不明）：
過敏症状があらわれた場合には使用を中止すること。
- (2) 皮膚（頻度不明）：
発赤、紅斑等の症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。
- (3) 長期・大量使用（頻度不明）：
内服、注射等全身的投与の場合と同様な副作用があらわれることがある。

3. 妊婦、産婦、授乳婦等への使用

妊婦または妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。〔経口投与による動物実験で催奇形作用が報告されている。〕

4. 小児等への使用

低出生体重児、新生児、乳児、幼児または小児では、副作用が発現し易いので慎重に使用すること。

5. 適用上の注意

使用部位：

眼には使用しないこと。

使用時：

- (1) 長期間使用しても症状の改善が認められない場合には、改めて診断し適切な治療を行うことが望ましい。
- (2) 広範囲の病巣に使用した場合は、副作用があらわれやすいので注意して使用すること。

【薬効薬理】

サリチル酸は、抗真菌作用を有し、特に白癬菌に対して1000～4000倍で発育を阻止する。また、角質溶解作用も有する。^{1)～4)}

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：サリチル酸 (Salicylic Acid)

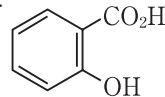
化学名：2-Hydroxybenzoic acid

分子式：C₇H₆O₃

分子量：138.12

融点：158～161℃

構造式：



【包装】

25g 500g

【主要文献】

- 1) L. S. Goodman & A. Gilman : The Pharmacological Basis of Therapeutics (4th. Ed), 1061 (1970)
- 2) 熊谷 洋他：臨床薬理学大系，第14巻，108・234(1969)
- 3) 占部治邦：皮膚と泌尿，20 (2)，122 (1958)
- 4) 師井庸夫：皮膚と泌尿，25 (2)，221 (1963)

【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部

〒164-0011 東京都中野区中央5-1-10

TEL 03-3381-2004

発売元  吉田製薬株式会社
 東京都中野区中央5-1-10

製造販売元  丸石製薬株式会社
 大阪市鶴見区今津中2-4-2